

【中学2年】ウダウダしているように見えるけれど、実は。

あんなに可愛くて分かりあえていたはずなのに、その息子を、いまは「なんでこんなに可愛くないの！」と思ってしまう、この時期。まるで知らない人かのようにそっけないかと思えば、急に甘えてきたりします。この時期の男子は体の成長が急激なので、親側の気持ちの対応が間に合わない、追いつかないという感じではないでしょうか。親としては、昔の可愛い子に戻ってほしいと思う気持ちもどこかにあったりして。

でも彼らは「自分は何ができるのか?」「集団の中で生き抜いていけるのか?」などと中学生なりに真剣に（一見ウダウダと）考えていて、この時期がなければこの後の人生を生き抜いていけないことを、無意識ではあるけれど分かっているのです。親の言う通りに将来を見据えて行動することが正しいと思うときもあるけれど、新しい世界に出会って生きていくことも考えている子供たち。親が安心できる道を歩く姿だけが、大人への道ではないかもしれません。

将来を模索しながら成長の真ただ中にいる彼らを、少し距離を置いて見守り、甘えてきたときは甘えさせてあげましょう。そして「親が考えている将来」は、彼らが大人になった時には通用しないかもしれないことを、大人は肝に銘じておきましょう。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

